武　一　中

令和７年 12 月 25 日
武蔵野市立第一中学校
学校だより R7－16 号

URL:https://dai1-jh.musashino-city.ed.jp/

学び続ける力

校　長　　中嶋　建一郎

校長研修でロッテホールディングス取締役の渡部一文さんの話を聞く機会がありました。渡部さんはアマゾンジャパンに長く勤めていて、そこで培った国際感覚や能力、スキルに基づいた未来の考え方について経験談を交えながら話してくださいました。その中に「人材育成として学校教育に期待すること」という内容があったので、皆さんに共有したいと思います。

渡部さんは、「企業の寿命は 30 年。今後 10～20 年で定年退職は無くなるだろう。とすると人の平均寿命を考えると 60 年くらい働くことになり、その間初めに勤めた会社は無くなる。1 つの得意分野だけでなく、もう 1 つ別の分野の能力も高めなくては次の会社に入れない」と言っています。「企業寿命が 30 年と考えると、就職時に人気がある会社より、今後が期待できる小さな会社がいい」という話もありました。

「10 年後には今は存在しない会社や職種で働くことになる」。このような変化する社会にどう対応したらいいのか。渡部さんはこう言っています。「未知の環境に適応する唯一の方法は、自らをアップデートし続けること」つまり「学び続ける力」を身に付けることが大切だというのです。

そしてこの「学び続ける力」を育むには「失敗を恐れない」気持ちが大切だと言っています。「学校には『失敗を許容する環境』を作ってほしい。失敗は『避けるべきリスク』ではなく、生涯続く『学びと成長の源泉』であるという見方や考え方をもってほしい。」「学生時代に挑戦と失敗のサイクルを回すことで、社会に出てからも自ら学び直し、変化し続けることができる Learning Mindset（学びの見方や考え方）を形成します」とも話していました。

学校が作る「失敗を許容する環境」として、「心理的安全性の確保」が大切だと言っています。「『失敗しても否定されない』安心感が、学習への恐れを取り除く。完璧さを求めず、試行錯誤を許容する環境が、困難な状況でも学び続ける意欲を支える」というのです。

また、「失敗の振り返り文化」も重要で、「失敗を単なるミスとせず、そこから何を学んだかを重視する」ことも取り上げていました。失敗から学ぶ姿勢を身に付けることも大切なようです。

私は、渡部さんの話を聞いて、学校がやらなければならないことが明確になりました。それは、皆さんが安心して失敗できる環境を作ることです。皆さんがたくさん失敗を経験して、「学び続ける力」を身に付けられる学校にしたいと思います。

渡部さんが示してくださった「学び続ける力」について、皆さんはどう受け止めましたか。読んでみて、感想が書ける人は書いてみてください。

※保護者の皆様にも感想を募集します。お子さんのクラスルームにリンクを用意しました。いただいた感想は学校だよりに掲載させていただくかもしれません。名前は伏せますので、ご了承ください。